

勿凝学問 312

まともな野党が生まれてきたというこの国の好機
政権交代の意義は、やっぱり、バカな最大野党がいなくなったことなんだよ

2010年6月6日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

先日は、某新聞社の論説委員室で、予定では1時間半のところ、みんなで話が盛り上がってしまって3時間近く遊んでしまった。閉会后、出席者のひとりが、次の言葉をつぶやきながら部屋を出て行かれていたのが印象的だったので、まとめておきます。

「なるほどそうだよなあ。大切なのはまともな野党ねえ・・・」

そうなんです。野党がまともなことを言ったら評価してあげてくださいませ。この国のメディアは、これまであまりにも、バカなことを言う野党を評価しすぎてきました。それがこの国の政治をどれほど墮落させてきたことか・・・。

「上げ潮派」を抱える自民党が、「上げ潮派」の抵抗を押し切って消費税10%を掲げて参院選を闘うそうで、これは、大変立派なことです。最大野党である自民党の決断は、選挙のために財政問題ではウソを突き通すべしとする小沢グループとは意見を異にする、与党民主党の今の主流派の決断に大きく影響するでしょうからね。

	財政問題を正直に論じて、国難を乗り越えようとするグループ	財政問題でウソをついて衆愚選挙をしかけ続けようとするか、社会保障機能強化を考えていないグループ
与党	民主 反小沢グループ	民主 小沢グループ
野党	自民 谷垣グループ 立ち上がれ日本 与謝野グループ	自民 上げ潮派 みんなの党 等々

参考資料 「[参院選前夜の政界マップ](#)」『週刊東洋経済』4月24日号

注) 面白いのは、民主党内の対立グループ、自民党内の対立グループは、互いに烈しく憎み合っており、菅・谷垣間、小沢・上げ潮派・みんなの党間の方が親和性が高いということ。僕が、各政党を海苔巻きのようにまな板の上に並べて、右と左の2つに分ける政界再編の必要性ありと言い続けてきた根拠は、そこにある。日本の政党は、まあ、政党の体をなしていないわけで、民主党の代表選や自民党の

総裁選の結果次第で、党の方針そのものが右に行ったり左に行ったり右往左往——有権者にはたまったものではない、政党政治確立に向けた原始的状态。。

上の表の中で、財政問題を正直に論じて国難を乗り越えようとする「野党グループ」が、いままでこの国には存在しなかったのが、この国の最大の不幸でした。

自民党が消費税率を明示する方針を決めた日が、小沢・鳩山体制の崩壊の翌日なのは偶然ではなく、日本の政界で、負担増にいかに関心的に取り組む必要があるかという軸上で政策論争が行われるには、小沢・鳩山体制の崩壊は必要条件だったのです——と、今年の総選挙の翌日から、倒幕運動のために反政府活動に潜伏した僕は思う（笑）。

とにかく、まともな政治が行われるためには、まともな野党の存在が重要だとういことはずっと前から思っていたわけで、野党の重要性を論じたことが記録に残っているのは、2008年11月の次のインタビューがはじめてみたいです。

日本歯科医師会(08年11月12日実施インタビュー)「[権丈教授に医療政策を聞く 第2回](#)」『日本歯科医師会雑誌』(2009, Vol.61, No.11)32頁。

2大政党制は実行可能性のある政策を掲げる2つの政党が存在して初めて機能する制度なのですが、日本の野党の多くの方が2大政党制にかけた期待をことごとく裏切っていて、今や、中選挙区の方が良かったのではないかという意見が大勢を占めてきているようで、本当に残念です。

そして、「まともな野党」という言葉を使ったのは、去年12月の次の模様。

勿凝学問 273 [2008年新春に予測した三つ巴の論戦、その後——天皇誕生日の講演での、「選挙権を国に返上する権利を認めてもらいたい」の意味](#)

今日の大学での立ち話・・・

「審議회를辞めたらしいけど、権丈君は、政権交代はどう思ってるの？」

「そりゃ、評価してるますよ。おかげで、この国からバカな野党がいなくなりましたからね。2大政党制というのは、まともな野党があってはじめて成立する体制。なんでも反対、挙げ句の果てには[ガソリン値下げ隊](#)とか編成して「ガンバロー」を三唱するような、あんな政党がある限り、この国ではまともなことはできなかったですから。でも、国民も、取り返しのつかなくなる前に、火遊びもほどほどにしないと」

それから、今年3月に、まともな野党の登場に、期待を抱く文章を書いていますね。

勿凝学問 293 [それは禁じ手なんだが、残念なことそれが民主党の常套手段——代替案なき批判は、政治の世界でも研究の世界でも百害あって一理なし](#)

これまで僕は、政権交代の長所は、「バカな野党がいなくなったこと」と言ってきた。あ

る人から、「そのまま、バカな与党が生まれたことも忘れてほしくない」と言われたこともあるが、「2大政党制は実行可能性のある政策を掲げる2つの政党が存在して初めて機能する制度」とも言ってきた僕が、しばしば言うのは、**政権交代後、うまくいけば、この国にまともな野党が生まれるかもしれない**ということである。**与党は嫌が上でも「実行可能性」というものと付き合っていかなければならないので、政治が良くなるかどうかは、まともな野党の存在にかかっている**のである。今の混乱と閉塞感は、かつての野党が、選挙戦略として、禁じ手を使ったところに原因がある。だが残念なことに、禁じ手を使う政党が出てきた時から、今の混乱と閉塞感を避ける方法は、この国には過去に存在しなかったのである。

他に、「まとも」という言葉を使った文章に、5月5日に書いた次もありますね。

勿凝学問 305 [普天間問題に思う政治家の合理的無知、いや、ただの不誠実かな——でもまあ、この問題、民主主義を考える上で根が深いよ](#)

年金論議で本当に詰めなければならない細部の議論は、彼らに早く「腹案」を出してもらわないと何もできない。民主党は、2004年4月に法律案11頁、理由1頁の資料を出して以来6年間、政権交代後半年経っても何も出してこないんだからどうしようもない」と答える。なお、2004年2月に当時の与党が出した年金改革関連法案は法律案460頁、理由1頁であった。

とにかく、彼らが選挙を前にして言ってきた甘い話と整合性のある「腹案」があるかのように振る舞って、投票者を騙していくのが彼らの常套手段である。専門情報を取り扱う職業の世界で、こうした職業倫理を無視した人たちが出てきたら、まともな人たちは絶対にはかなわない(笑)。彼らに勝つためには、同じ手段を使うしかないんだよな——どこぞの政党のように。。。

バカなことを言わないで、「まとも」でいるだけで誉めてもらえるんだから、政界ってのは、ほんっと、呆れた世界だよ。。。と言っても、僕はまだ、「まともな与党」が生まれたとは言っていない。年金とか、ほんっと、バカな野党時代のものを引きつったままバカな与党になっただけですからね、今の民主党は。

それで、前述の文章の「どこぞの政党」については、次で「新党抜け駆け」として紹介していますので、お手すきの時にでもどうぞ。

勿凝学問 310 [「日本の経済・国民生活を守る仕事に就く者たちが挙国一致で取り組むべき課題」の意味](#)

そして、本日の最後は、「彼ら（民主党）に政権でも獲らせないとあの政党はどうしよう

もないですよ」という会話を紹介した、2008年1月に書いた文章を紹介しておきます。

勿凝学問 129 [政権奪取、民主党の確かな手応え？—無責任なことを言えば言うほどまくいく](#)

いつもながら財源問題なしの「人気とりだけ」で勝負をしようとする民主党はあたま痛いねという会話のなかで、いつのまにか、「彼らに政権でも獲らせないとあの政党はどうしようもないですよ」という流れができていた。

民主党の言うことを素直に信じる層はそれはそれでいるのかもしれない。けれども、野党第1党が「人気とりだけの公約」を掲げ続けているのはこの国の危機と判断できる層のなかに、「彼らに政権でも獲らせないと・・・」という流れが出はじめているのが、わたくしにとってなんとも興味深い。

ひょっとして彼ら民主党は、そうした流れになるのをねらった高等戦術をとっているのかもしれない——彼らが無責任なことを言えば言うほど、政権奪取に確かな手応えが生まれてくる（笑）。いやはや、この国の民主主義のレベルはなんとも(T_T)トホッ

本日は、これにておしまい。